

ケルビム Cherubim(智天使) ソピア→ソフィア Sophia(G)	緋(あけ)
聖書にあるケルビムについての記述 (主な聖句等)	関連聖句
<p>神は、ケルビム (→ヘブライ語「ケルブ」の複数形) ときらめく剣の炎を命の木に至る道を守るために、エデン (→歓喜、愉悦) の園の東に置かれた。 →剣は、神がイスラエルの敵を打ち倒すために用いた剣である (イザヤ書34:5~6、エレミヤ書47:6~7)。 →炎や剣は度々、神の臨在を象徴し (出エジプト記3:1~6、19:16~18、ヨハネの黙示録1:12~16)、きらめく剣の炎は、稲妻のような形と考えられている。</p>	創世記 03:24
<p>ケルビムは打ち出し作りで一对を作り、贖いの座 (→契約の箱の蓋) の両端に置かれた。 →贖いの座 (憐み・恵みの座) : ヘブライ語で「カポーレト」 (罪を覆う)、神がそこに座し、計り知れない思いやりと憐みをもって民を裁き、民が何をすべきかを告げる場である。</p>	出エジプト記 25:18
<p>一对のケルビムは顔を贖いの座に向けて向かい合い、翼を広げてそれを覆う。</p>	出エジプト記 25:20
<p>神は掟の箱 (→十戒の石板を収めた契約の箱) の上の一对のケルビムの間、すなわち贖いの座の上からモーセに臨み、イスラエルの人々に命じることをことごとくモーセに語られた。</p>	出エジプト記 25:22
<p>仕事に従事する者のうち、心に知恵のある者 (→腕のいい織物師たち) が幕屋を覆う十枚の幕を織り、亜麻のより糸、青、紫、緋色の糸を使って意匠家の描いたケルビムの模様を織り上げた。→緋色 (スカーレットscarlet) : やや黄色みのある鮮やかな赤</p>	出エジプト記 26:01/36:08
<p>モーセは神と語るために臨在の幕屋に入った。掟の箱の上の贖いの座を覆う一对のケルビムの間から、神が語りかけられる声を聞いた。</p>	民数記 07:89
<p>ソロモンはオリーブ材で二体のケルビムを作り、内陣 (→至聖所) に据えた。その高さは十アンマ (→4.5m≒45cm/アンマ (=キュービット) ×10、㊦エゼキエル書:1アンマ≒52.5cm) であった。</p>	列王記上 06:23
<p>ケルビムの翼は一方が五アンマ (→2.25m) で、他方も五アンマ、一方の翼の先から他方の翼の先まで十アンマ (→4.5m) であった。ケルビムは二体とも同形同寸であった。</p>	列王記上 06:24~26
<p>ソロモンはこのケルビムを神殿の奥に置いた。二体のケルビムはそれぞれ翼を広げ、一方のケルビムの翼が一方の壁に触れ、もう一方のケルビムの翼も、もう一方の壁に触れていた。また、それぞれの内側に向かった翼は接し合っていた。彼はケルビムも金で覆った。</p>	列王記 06:27~28
<p>神殿の周囲の壁面はすべて、内側の部屋も外側の部屋も、ケルビムとなつめやしと花模様の浮き彫りが施されていた。</p>	列王記 06:29
<p>内陣の入り口のオリーブ材の二枚の扉にもケルビムとなつめやしと花模様を浮き彫りにして、これを金で覆った。</p>	列王記 06:31~32
<p>外陣 (→聖所) の入り口の糸杉 (=西洋檜、ヒノキ科イトスギ属) 材の二枚の扉にもケルビムとなつめやしと花模様を浮き彫りにし、彫られているところによく合わせて金を張った。</p>	列王記上 06:33~06:35
<p>神殿の備品である青銅 (→銅CuとスズSnの合金) の台車にある横木の間鏡板 (かがみいた) や、その下の車輪には獅子と牛とケルビムが描かれ、上の横木にもそうされていた。</p>	列王記上 07:29/07:36
<p>祭司たちは主の契約の箱を定められた場所、至聖所と言われる神殿の内陣に運び入れ、ケルビムの翼の下に安置した。ケルビムは箱のある場所の上に翼を広げ、その箱と担ぎ棒の上を覆った。</p>	列王記上 08:06~07
<p>神殿の梁、敷居、壁、扉も金で覆い、壁にはケルビムの浮き彫りがつけられた。</p>	歴代誌下 03:07
<p>ソロモンは、至聖所の中に二体のケルビムを鋳物で造り (→出エジプト25:18:打ち出し作り)、それを金で覆った。その二体のケルビムの翼は長さが合わせて二十アンマ (→9m) であった。一方のケルビムの翼の一つは五アンマ (→2.25m) で神殿の壁に触れ、もう一つの翼も五アンマで、もう一方のケルビムの翼に触れていた。</p>	歴代誌下 03:10~11
<p>ケルビムの広げた翼は合わせて二十アンマ (→9m) であった。ケルビムは顔を内側に向けて足で立っていた。</p>	歴代誌 下03:13
<p>ソロモンは、青の織物、深紅の織物、緋の織物、麻の織物で垂れ幕を作ったが、それにもケルビムの縫い取り (→刺繍) を施した。</p>	歴代誌下 03::14
<p>ケルビムは箱のある場所の上に翼を広げ、その箱と担ぎ棒の上を覆っていた。</p>	歴代誌下 05:08
<p>ケルビムの翼の羽ばたく音は外庭にまで聞こえ、全能の神が語られる御声のようであった。(エゼキエル書10章:エゼキエルの幻視体験)</p>	エゼキエル書 10:05

ケルビム Cherubim(智天使) ソピア→ソフィア Sophia(G)

緋(あけ)

四つの車輪が、ケルビムの傍らにあり、一つの車輪が、ひとりのケルビムの傍らに、また一つの車輪が、ひとりのケルビムの傍らにというように、それぞれの傍らにあって、それらの車輪の有様は緑柱石(→ベリル Be、アクアマリン等)のように輝いていた。 →車輪：ケルビム(生き物)と共にどの方面にも速やかに動くことができた。	エゼキエル書 10:09
ケルビムの全身、すなわち、背中、両手、翼と、車輪にはその周囲一面に目がつけられていた。ケルビムの車輪は四つともそうであった。	エゼキエル書 10:12
ケルビムにはそれぞれ四つの顔があり、第一の顔はケルビムの顔(→牛：エゼキエル書1:10)、第二の顔は人間の顔、第三の顔は獅子の顔、そして第四の顔は鷲の顔であった。	エゼキエル書 10:14
ケルビムが移動するとき、車輪もその傍らを進み、ケルビムが翼を広げて地上から上るとき、車輪もその傍らを離れて回ることにはなかった。ケルビムが止まると、車輪も止まり、ケルビムが上ると、車輪も共に上った。	エゼキエル書 10:16~10:17a
神殿の内側と外側にも、更に周囲の壁にも内側と外側に、くまなく、ケルビムとなつめやしの模様が刻まれていた。なつめやしは、ケルビムとケルビムの間にあった。ケルビムには二つの顔があって、人間の顔はこちらのなつめやしに向き、獅子の顔はあちらのなつめやしに向いていた。それは神殿の周りにも刻まれていた。床から入り口の鴨居の上まで、神殿の壁にはケルビムとなつめやしに刻まれていた。(エゼキエル書40~42章：新しい神殿の幻)	エゼキエル書 41:17b~41:20
拝殿の扉には、壁に刻まれているのと同じように、ケルビムとなつめやしに刻まれていた。(エゼキエル書40~42章：新しい神殿の幻)	エゼキエル書 41:25a
契約の箱の上では、栄光の姿のケルビムが償いの座(→ヘブライのみの表現)を覆っていた。	ヘブライ人への手紙09:05



図: The Path to the Throne of God by Sarah Peck

【参考】 コーヒーの木の葉がケルビムになった

